

## 税から生まれる大切な居場所

長岡市立西中学校

三年 作田 なずな

私にとって、一番身近な税金の使い道は、毎日通う学校です。校舎も机も椅子も教科書も全て税金で賄われています。私の住む長岡市では、市内の小中学生を対象に、「熱中！感動！夢づくり教育」という事業を行っています。様々な競技のスポーツ教室や音楽コンサート、また専門家を迎えての出前授業など、それぞれプロの方から技や技術などたくさんのお話を教えてもらえる貴重な機会です。私もその中のポニーキヤンプに参加し、たくさんのお話を学び、私の進路を決めるきっかけの一つになりました。また、私の中学校では、秋の合唱祭に、東京からプロの音楽家の方から来ていただいて、発声の仕方などを直接指導していただきました。初めはバラバラだった声が揃うようになり、みんなで声を合わせて歌う楽しさを教えてもらい、クラスが一致団結することができました。

教育に使われている税について、調べる中で、世界中には、様々な事情で学校に通いたくても通えない子供たちが五千人百万人もいることを知りました。また、たとえ学校に通えたとしても、机や椅子のない教室で一冊の教科書を何人も生徒で使っている国もあります。それに比べ日本では、広い教

室、大きな黒板、広い体育館やグラウンド、そして進級の度に一人一冊ずつ新しい教科書が配られ、身長に合った机や椅子を使って授業を受けることができます。

しかし、私の学校の備品に目を向けると、コンパスの針で穴を開けた机、落書きされた椅子、ぐしゃぐしゃになった教科書をたくさん目にします。毎日使う校舎の掃除でさえ仕方なくやっているのが現状です。どうせ自分の物じゃないから。元から汚れていたから。自分で買った物じゃないから。そんな気持ちで使っている人が多いからだと思います。

日本では、小中学校合わせて、九年間の義務教育を誰もが平等に受けることができます。そのために、使われる膨大な税金には、両親をはじめ、地域の方々やたくさんのお人達の子供たちにもっと充実した学校生活を送ってほしいという願いが込められていると思います。だからこそ、身の周りの物を大切に使うことは、私たちの大事な役目だと思います。

たくさんのお人達から納められた税金は、「学校」という形になり、私にとって大切な居場所になっています。勉強はもちろんです、それ以上に友達との友情、先生方との信頼関係、部活動での達成感などいろいろなことを築きあげたかけがえのない場所です。

消費税増税など税には、マイナスイメージが強いですが、私たちが快適に暮らすためには税は大切です。将来、私達が大人になるころには今よりも様々な税が増えているかもしれないですが、税の重要性や理解を深めて納税という義務をしっかり果たせる大人になりたいです。